

石田徹也展について

砺波市美術館
学芸員 杉本 積

この原稿を執筆している現在は、2014サッカーブラジルW杯のグループリーグの終盤にさしかかっています。石田徹也展は、昨年9月に足利市立美術館で始まり、その開幕に合わせた準備期間中に今回初めて公開されるアイデアスケッチやノートを調査していたところ、あるノートの中に94年サッカー日本代表のW杯予選の勝敗表のメモがありました。その中の一ページには、もうサッカーファンをやめると殴り書きがしてありました。これはいわゆる「ドーハの悲劇」という出来事があった予選です。あの衝撃的な結末を同じ時代に生きて同じ時間にテレビで見っていたのだなと思うと妙に感慨深く、石田徹也に強い親近感を覚ええました。

石田は、1973年静岡県焼津市に生まれ、武蔵野美術大学に在学中の95年に第6回グラフィックアート『3.31展』に応募しグランプリを獲得し、翌年に個展を行う機会を得ました。96年10月に「石田徹也展『漂流人』」を開催して気鋭の画家として徐々に注目を集めはじめた矢先、踏切事故により31歳の若さでその生涯を閉じました。没後は、遺作展や遺作集、多くのメディアでも取り上げられ大きな反響を呼びました。

みなさんは、石田徹也の作品といえば何を思い浮かべるのでしょうか？ 作者から作品を連想できなくても、「飛行機に入り込んで合体した人」と言えば何となく作品画像のイメージが浮かび上がってくるのではないのでしょうか。図版は、『飛べなくなった人』1996年静岡県立美術館蔵』という作品で展覧会ポスターや図録の表紙に使われたことで石田徹也の代表作となったものです。彼は、世の中の価値観が大きく変わる中で現代社会に渦巻く不安に目を向け、時に辛辣に、時にユーモラスに作品を描きました。

彼の大きな特徴であるさまざまな器物や風景と合体した「自画像」は、石田のまなざしを通した現代社会における匿名なものたちの象徴として描かれ、痛みや矛盾を抱えて生きる人々の表現として見るものの共感を呼んでいます。

今回の展覧会では、108点の作品を

中心に石田が遺した51冊ものアイデアスケッチやノートも公開します。また、スケッチに添えられた彼の言葉を随所に紹介し、一つの作品の誕生から完成までの制作の過程や思考の流れなどもわかりやすく紹介する予定です。

石田徹也展「ノート、夢のしるし」
9月6日～10月5日 砺波市美術館



《飛べなくなった人》1996年
静岡県立美術館蔵

砺波市文化会館の催物について

砺波市文化会館
倉橋 善 館 宏明

文化会館で自主事業を担当しています。初めての分野での仕事に毎日右往左往しながらの日々を過ごしております。

6月には「高嶋ちさ子&加羽沢美濃カジュアルクラシックス」を担当しましたが、チケットを売ることが大変だということに身染みたりしてろです。

8月23日(土)には、「ホールシネマ・イン・トヤマ2014」で『8月のクリスマス』が上映されます。開演は第1回目午後1時半から、第2回目午後4時から上映されます。入場料は無料です。

9月7日(日)には第31回ジャズセッション「となみビッグバンド・トラスト2014」が開催されます。開演は午後2時から、入場料は全席自由の一般1200円(当日1500円)、高校生以下は無料を予定しております。

10月10日(金)には『8月のクリスマス』に主演された山崎まさよしさんの『山崎まさよし LIVE SEED FOLKS in 砺波』が開演されます。開演は午後7時から、チケット発売は砺波市文化会館ホールメイト及びとなみ芸術文化友の会会員の先行発売が7月5日(土)から砺波市文化会館にて発売されます。一般発売は7月19日(土)からで、入場料は全席指定の6000円です。

11月30日(日)には砺波市合併10周年記念「となみ野音楽祭」が開催

されます。開演は午後3時からで入場料は、全席自由で一般2000円、小中高校生1000円を予定しております。

山崎まさよし



8月のクリスマス

山崎まさよし主演
高岡市金屋町などで撮影



「アンパンマンとやなせたかし展」開催にむけて

チューリップ四季彩館
企画普及係 嶋田武明

この4月1日に「砺波市文化振興会」と「砺波市花と緑の財団」が合併し、「砺波市花と緑と文化の財団」が発足しました。

この合併を記念し、砺波市美術館

とチューリップ四季彩館合同で、7月25日から8月31日まで夏季特別企画展「アンパンマンとやなせたかし展」を開催することとなりました。国民的キャラクター「アンパンマン」の生みの親で知られるやなせたかし氏は、漫画家としての顔のほか、作詞家としては「手のひらを太陽に」を世に出し、絵本作家、雑誌編集者、詩人、作曲家、脚本家、舞台演出家と多くの肩書を持ち、その活動は多岐にわたりました。

やなせ氏は作中で、常に生きることの尊さを謳うと共に「なぜ、何のために」と問いかけ「勇氣」と「希望」を人々に贈ってきました。去る2013年10月に惜しまれながら他界されたやなせ氏が残した功績は大きく、決して色あせることはありません。

本展覧会では、やなせ氏の歩んできた足取りを辿りながら、やさしくユーモアに溢れた「やなせたかしワールド」をお楽しみいただけるよう会場の特徴を活かした展示テーマを設けています。美術館では、やなせ氏が手がけた様々な作品の原画や詩など貴重なコレクションを展示紹介いたします。また、四季彩館ではアンパンマンを始めとしたやなせ氏が生み出したキャラクターを中心に展示するとともに、体験コーナーを設置するなど子供たちが楽しめる場所とします。

今回は、砺波市美術館とチューリ

ップ四季彩館のそれぞれの常設展もご覧いただける共通入場券をご用意いたしました。子供たちに絵を描く楽しみ、芸術文化に触れる感動、花や緑を愛する気持ち、そして愛と勇気を感じてもらえる展示になればと思います。

この展示会が両施設のファンの皆様の橋渡しとなれば幸いです。



《妖怪リンリンのひみつ》
©やなせたかし/フレールベル館・T.M.S・NTV

となみ芸術文化友の会 研修旅行のお知らせ

国宝「鳥獣戯画」全四巻を観る旅

10月22日(水)～23日(木)

滋賀県立近代美術館(開館30周年特別展「遊亀と鞍彦」)・京都国立博物館(特別展)修理完成記念「国宝・鳥獣戯画と高山寺」彦根・石塔寺(白洲正子ゆかりの塔)・智積院・清水寺宿泊・ホテルピアザびわ湖(大津)

昼食・彦根キャッスルホテル(鑑弁当・近江牛)、明保野亭(京弁当) 経費一八、〇〇〇円

※詳細は後日連絡します

編集後記

「石塔寺へ最初に行ったのは、ずいぶん前のことだが、あの端正な白鳳の塔を見て、私ははじめて石の美しさを知った。」

白洲正子「かくれ里」より

今年度の友の会研修旅行は近江と京都の旅を計画しました。春の「野口謙蔵展」は好評のうちに終了しましたが、今回訪れる石塔寺は野口の古里に近く、塔の前で記念写真も撮っています。滋賀県立近代美術館では小倉遊亀の「徑」(東京芸術大学蔵)と師である安田鞍彦の「夢殿」(東京国立博物館蔵)も展示されます。また昼食の明保野亭は坂本龍馬の常宿でした。多く会員の皆様の参加をお願いします。(〇)

ストローに吸いつく種やソーダ水 大木あま

発行となみ芸術文化友の会事務局

(砺波市美術館内)

☎939-1383

富山県砺波市高道145-1

電話0763-321001